



東京都小学校道徳教育研究会

令和8年5月7日

都小道研だより 第2号

～ 研究は厳しく、人間関係は温かく ～ 会長 星野典靖

1 はじめに

都小道研会員の皆様、充実した大型連休をお過ごしになられましたでしょうか。

私は、妻の郷里へ帰省して「浜松まつり」を楽しんできました。「浜松まつり」は、毎年5月3, 4, 5日に行われるまつりで、約450年前、城主が子供の誕生を祝って凧を揚げたことが始まりとされています。現在は、1歳の子供の成長を祝うため、市民が主役となって地域一体でつくりあげる行事として続いていて、昼は大凧揚げ合戦、夜は御殿屋台引き回しが行われます。

今年は、大河ドラマ「豊臣兄弟」で徳川家康役の松下洸平さんと石川数正役の迫田孝也さんによるパレードもありました。

徳川家康は29～45歳を浜松城主として過ごしています。そのご縁があって、今回のゲストが選ばれたそうです。ちなみに、家康がここから天下人への道を開いたことから、浜松城は出世の象徴とされていて、「出世城」という銘柄の日本酒も販売されています。

前置きが長くなりましたが、浜松の地を訪れ、徳川家康の故事来歴に触れ、道徳ともつながると感じたことがありました。

2 家康から学ぶ

(1) 幼少期の家康の姿から

幼少期、徳川家康は今川や織田のもとに人質として送られ、家族と離れて過ごす孤独な日々を重ねていました。しかしその中で、家康は「見て学ぶ力」「耐える心」「考えて行動する力」を静かに育てていたそうです。剣術や書物に触れる時間は、自分を守るための武器であり、未来を変える「学びの種」でもありました。どんなに不安な環境でも、自分の内側に灯る小さな意志を信じて歩いていこうとする姿は、現代の子供たちにも大切なことだと感じました。

(2) 「鳴かぬなら鳴くまで待とう……」

織田信長は、「鳴かぬなら殺してしまえ……」。豊臣秀吉は、「鳴かぬなら鳴かせてみせよう……」。徳川家康は、「鳴かぬなら鳴くまで待とう……」。

徳川家康の言葉から、結果を焦らず、じっと時がくるのを待つことの大切さが伝わってきます。

これは、単なる我慢ではなく、相手の可能性を疑わず、何かがよりよく変わる時が来ることを強く信じる姿勢です。家康の言葉にある「まだ鳴かない」は「まだ育っていない」とは大きく違います。

親や教師が「待つ」という選択をすることは、子供の可能性を信じるという最も大切な支援なのではないでしょうか。

家康は、人生の多くを「待ち続けること」に費やしました。すぐに戦わず、すぐに動かず、相手を知り、自分を知り、時を味方に付ける力を身に付けていたのです。この「鳴かぬなら鳴くまで待とう……」の奥にあるのは、「自分にも他者にも、成長の時間を与える」という優しさです。

子供たち一人一人のよさや可能性を信じて教師がしっかりと「待つ」ことは、道徳科授業の充実のためにとっても大切なことなのだ、改めて思いました。

【参考・引用文献：(有)人形のひなせいホームページ】

3 令和8年度の主な予定(都小道研、全小道研、関小道研等の大会について)

(1) 都小道研

- 定期総会並びに講演会【令和8年5月28日(木) @昭島・田中小】
- 「道徳講演会」「指導教諭及び地区理事・部長研修会」(新名称を検討中)
【令和8年8月21日(金) @都研修センターor 渋谷・加計塚小】
- 臨時総会並びに研究発表会【令和9年2月5日(金) @江戸川・上小岩小】

(2) 全小道研

- 夏季中央研修講座【令和8年7月30日(木),31日(金) @台東・根岸小】
- 全国道徳教育研究大会岩手大会【令和8年11月4日(木)・5日(金) 岩手県盛岡市】
- 研究発表大会【令和9年2月19日(金) 町田・成瀬小】～研究部発表

(3) 関小道研

- 関東地区小学校道徳教育研究大会栃木大会【令和8年11月27日(金) 栃木県鹿沼市・中央小】
～調査部発表

(4) 全小道研・都小道研の共催

- 役員の変遷をお祝いする会【令和8年6月19日(金) @喜山倶楽部】～都小道研が担当

(5) 東京都道徳教育推進委員会との連携

- 第1回推進委員会(5/25)
- 「授業力向上セミナー(全3回)」の詳細は後日決定